



——新たな病院名には、「消化器」が大きく打ち出されています。

当院のある琴似地域には、長い歴史を持つ病院が幾つもあることから、その差別化として私達がかねてより注力している診療の中心を担っている消化器領域を、改めて前面に打ち出しました。実際に当院を利用する約半数は消化器領域の患者です。そこで、元々強い分野ならば、それをさらに強くしていこう、という方針としました。

そうすることで、消化器分野の強化をいわば呼び水に、ほかの診療科の機能もレベルアップしていこうと考えたの

です。その上で人と設備の両面から、総合病院として全体の機能を高めていきます。

——その機能強化に取り組む上で基本方針となっているのが低侵襲医療ですね。

はい。治療における患者の身体にかかる負担を、いかにして少なくするかは、これからも追求していく課題です。先進的な医療技術を積極的に

先進医療で大学病院レベルの急性期医療型病院を確立する

対応できるものとして、多くの透析患者に安心を提供できると期待しています。

——地域との関わりについて、独自の取り組みを行っていますね。

月に1度、地域住民などに向けた入場無料の医療公開講座を、2年前前から継続して行っています。直近では、4月23日に

導入していこうとする動きも、その目指す方向は低侵襲医療のさらなる充実ですから。

——その低侵襲医療に大きく貢献しているのが、内視鏡的診断治療ですね。

内視鏡を活用したインターベンション治療は、当院における診療の中心を担っている消化器領域に限らず、全ての診療科で低侵襲医療を実践で

きる技術です。この治療の充実を最大の強みとして、これからの全面的に行っていくきます。

——透析治療にも注力していきます。

国内でも珍しい個室型の透析室について注目されることが多いですが、これから設立するバスキュラーボも、シヤントのトラブルに包括的に

イムス札幌消化器中央総合病院 丹野 誠志 院長

は当院近くの八軒会館大ホールを会場に、消化器内科部長の本村巨医師が講師を務める糖尿病をテーマにした講演を実施します。

——この公開講座を始めたいきっかけは。

当院はもともと療養型の病院でしたので、より多くの地域住民に対して、当院が新しい医療を積極的に取り入れている病院なのだと、

広く周知してもらおうことを目的に始めました。これを通じて、地域に住む人々が最先端医療を受けられる場所が身近にあるということを知るときかけにはなっているとと思っています。

——今後の運営方針について教えてください。

これからは、急性期医療を主体とした病院にしていきたくて考えています。

これまでは慢性期医療への対応が中心となっていました。が、今後は最先端の低侵襲医療を通じて、大学病院レベルの急性期医療に対応できる病院を目指していきたい。すなわち、当院が得意とする消化器領域など特定の疾患については、わざわざ大学病院に行かなくても高度な医療が受けられる病院にしていきたいのです。病院の建物自体は6月に改装を終え一新されますが、そのようなハード面だけではなくソフト面も新しくして、患者により大きな安心感を提供していきます。

診療科自体もこれからさらに増やしていく方針です。加えて10年、20年前の古い医療は行わない、というのも当院全体の考えとして徹底していきます。

そして将来的には「北海道にイムス札幌消化器中央総合病院あり」として認知されるような先進的の低侵襲医療の拠点病院を目指し、「イムス札幌」の名称が親しまれる病院にしていきたいですね。